

「国土と交通に関する図画・作文コンクール」県内入賞者のお知らせ

◆県内作品から国土交通事務次官賞（優秀賞・作文部門）の受賞がありました！

コンクールへは、小学生を対象とした図画部門、中学生を対象とした作文部門において、全国から合わせて約3,225もの作品が寄せられました。

各県の地方審査を経て推薦された作品を対象に中央審査が行われ、国土交通大臣賞（最優秀7作品）・国土交通事務次官賞（優秀24作品）等が決定しました。

県内からは、合計48作品の応募があり、中央審査へ5作品（図画3作品・作文2作品）を推薦した結果、作文部門で紫波町立紫波第二中学校2年の大角早紀さんが国土交通事務次官賞を受賞しました。おめでとうございます。

コンクールは毎年6月～9月の間に募集を行っており、県土整備部が窓口となっています。募集案内は、県内全小中学校へ送付しておりますが、生徒個人からの直接の応募も大歓迎です。次回コンクールへの皆様からの作品の応募をお待ちしております。

国土交通事務次官賞【作文部門】

作品名：『熱い想いを受け継いで』

受賞者：紫波町立紫波第二中学校 2年

大角 早紀 さん

私が住んでいる紫波町には、一級河川の北上川が流れ、辺りには田園が広がる、自然豊かな所です。私は、紫波町の赤沢という地区に住んでいます。赤沢は、フルーツの宝庫で、ホテルが沢山ある綺麗な川も流れていて、私の自慢の故里です。

しかし、この故里の風景も、一時は悲惨なものになったことがありました。それは、平成十四年七月の台風六号の上陸でした。台風は、一晩のうちに川や山の姿を変えていきました。

台風上陸の翌朝。外に出て周りを見渡すと辺り一面が水でした。川があふれ、氾濫し、田や道路が見えない状況でした。田は、川の泥やゴミ、流された魚などが沢山入り、稲は見えませんでした。一日かけてもゴミは取りきれませんでした。なんとか稲が出てくるほどにはなりました。困ったことは、まだまだ沢山ありますが、小学生だったそのころの私にとっては、学校に行けなかったことが、一番困りました。川の水が道路にあふれ、行く手を阻んでしまったからです。私の友達も、また、同じ理由で学校へ行けませんでした。私の家のすぐ近くの友達の家は、床下浸水でした。普段は、何気なくテレビで見ていた災害が、今、現実のものとなって自分にふりかかっているということで頭がいっぱいになり、冷静に事を判断することができませんでした。その日、私は外に出ることなく、一日中、自分の部屋から、変わり果てた風景を眺め、ため息ばかりついていました。

しかし、次の日になると、もっと厳しい現実を知らされました。それは、土砂崩れでした。家の近くを通っている国道の脇の斜面が崩れ、一方通行になり、少し進んだ山の道では、電線に折れた枝がぶら下がって今にも電線が切れそうでした。

でも一番悲しかったのは、折れたリンゴの木を切っている祖父の姿を見た時でした。私の家では、父や祖父がリンゴを大切に育てています。リンゴはついこの間まで青い実をつけていました。しかし、そのリンゴ畑はメチャメチャでした。木が倒れ、枝が折れ、リンゴの実は地面にゴロゴロと落ちていました。祖父は悲しい顔をしながら折れたリンゴの木を切っていたのです。せっかく育てたリンゴの木を切っている姿はとても見ていただけませんでした。あの時の祖父の姿は、今でもはっきり覚えています。

私は、この災害を目にした時、パニックで何をしたいのか全然分かりませんでした。しかし、両親や祖父は、気持ちを切り替えて、大量のゴミや大木を手際よく片付けていました。そして、水が引いた頃父と祖父は、倒れそうになっているリンゴの木の根元に土を敷き、倒れないようにしました。それから一年後、新たにリンゴの木を植えました。私は、次々に作業を進める父や祖父に、どんな気持ちで仕事をしているのか尋ねました。父は、「何でそん

な当たり前の事を聞くんだ。」と言いながら、「そったなごといちいち言ってたらちあかねべじえ、残ってらった実の収穫までにしてしまわねば、手回らねんだじゃ。」と続けました。私は、改めて農業の大変さと自分の土地を守ろうとする父の強い気迫を感じました。

父や祖父の行動を見て、私にも何か出来ることはないか考え、学級のみんなとも話し合っ、赤沢川のクリーン作戦をすることにしました。川を綺麗にし、倒木などで川が氾濫しないようにするためです。私は、二度とこんな恐ろしいことが起きないでほしいと思いながら川のゴミを拾いました。

そして、台風上陸から一年近く過ぎた頃、赤沢川のアちこちで、川の工事が行われました。これで、洪水になっても水の出の調整ができるようになりました。また、土砂崩れになった場所は、土を固めて植物の種を蒔き、根を張らせ、土が崩れにくくなるように工事が行われました。それからは台風が来ても、大きな洪水や土砂崩れは起きていません。しかし、このような自然災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。

私の学校の職員室の壁に、大きな地図が貼ってあります。それは平成十四年七月の台風で、土砂崩れや川の氾濫等が起きた箇所を色別に表示した防災マップです。北上川沿いを中心に私の住む赤沢も、川の氾濫を示すピンク色に塗られています。これを見るたびに、あの日の記憶がよみがえります。私は、自分の町がどんな地形で、過去にどんな災害が起こったか知ることが、災害を繰り返さないことにつながると思います。そして、普段から気象情報に耳を傾けて、防災の準備をしていくことが大切だと思います。今、赤い実をつけているリング畑を眺めながら、どんなに小さな活動でも、環境を守る活動を続けていきたいと思っています。父や祖父の熱い想いを胸に……。

中央審査 佳作作品【図画部門】



作品名 「どじょうもいるよ」
奥州市立白山小学校 3年
鈴木 風花さん



作品名 「大きく育てね」
二戸市立中央小学校 5年
加藤 日奈さん



作品名 「自然の中の水族館」
二戸市立浄法寺小学校 6年
田中 未奈美さん

『国土交通 DAY』とは？・・・

国土交通省設置法が交付された平成 11 年 7 月 16 日にちなんで、毎年 7 月 16 日を「国土交通 DAY」としています。国土交通行政に関する意義・目的、重要性を広く国民に広報し、日々の安全、美しく良好な環境、多様性ある地域の実現するための基盤形成を推進するため、広く国民の理解と協力を得ることを目的として、当コンクールや関係施設の一般公開など、様々なイベントが開催されます。

中央審査 佳作作品【作文部門】

作品名：『変わりゆく盛岡に残したいもの』
受賞者：盛岡市立下橋中学校 2年
横澤 大河 さん

◇ 地方審査の結果については、県土整備部 HP へ、1 月中旬頃に掲載予定です。

◇ 全国の国土交通大臣賞及び国土交通事務次官賞作品については、国土交通省ホームページに掲載しています。
掲載 HP⇒ <http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha07/00/001217.html>